

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名							公表日	2025年 3月 31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	0	十分なスペースがあり、活動によって子どもの状況によって部屋を使い分けている。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	0	子どもの状態によってはマンツーマン対応をしないといけない時があるのでそういう時はフォロー体制を取ったり連携して子どもを見			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	2		エレベーターがないので、車いすの子どもはマンパワーで移動するようにしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	0	建物が古いので、掃除や整理整頓、消毒をして少しでも快適に過ごせるようにしている。	引き続き活動に合わせて環境や場の設定を工夫していきたい。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	0	中、高校生になると遊びというより個別に話を聞いてほしい子どもが出てきている。マンツーマンで個室で対応する等している。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	1		PDCAサイクルの取り組みについて職員に理解してもらって、しっかり参画してもらえるように確認する機会を持ちたい。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	全職員で評価表を見ながら保護者の意向を確認し、具体的にどう改善していくのか話し合っている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0		具体的に対策を構じて改善に努めたい。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	4		第三者評価の導入について時期を含めて検討中。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	0	施設内、法人内、外部の研修など、色んな学びの機会を提供している。	本人の勉強したい気持ちを応援するべく、本人の希望を聞いてモチベーションにつなげたい。		
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	0	プログラムは何人かで話し合って原案を作り、子どもや保護者に提示するようにしている。それについて意見や要望を聞いて了解し			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4	0	保護者だけでなく、子ども本人のアセスメントを行い、ニーズや本人の状態に合った支援計画を作成するよう努めている。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	0	子どもに関わった職員の意見を聞いて児童発達支援管理責任者が保護者のニーズも把握した上で本人主体という視点で検討している。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	0		職員間で支援計画が共有され、実際に行われているのか等、定期的に振り返りを行って、必要であれば内容について検討変更していき		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	0	子どもの状態、状況についてはフォーマル、インフォーマルなアセスメントをもとに確認している。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	1	年齢が上がると共に「移行支援」「地域支援」の視点が必要なのでその意識を職員が日ごろから持てるように定期的に確認したい。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	1	中心になる職員がプログラムの案を立ててそこに他の職員の意見も入れて完成させている。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	0	季節や時期によって、また子どもの年齢によって同じ活動でも内容を変える等、工夫している。	今後はもっと子どもの意見も取り入れてプログラムを立てたい。		

提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	0	子どもの発達状況に合わせて、個別と集団の活動を組み合わせ支援計画を立て、柔軟に対応している。	本人の行けんを尊重し、本人が選んだり、決めていけるように支援していきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	0	0	支援開始前の打ち合わせが無理なら前日に打ち合わせをする等、できる限り工夫して時間を取るようになっている。	職員全員で意識して打ち合わせの時間を作るようにしたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	0	0	全員が揃わなくても、気付いた点や改善した方がいい点、子どもの状況など情報共有するようになっている。	気になった点や上手くいかなかったことをそのままにしないで協力、連携することを徹底したい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3	1		記録を取るだけでなく、それをどう活かしていくかを大切に、職員の意識がけをしていきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	0	本人が意思決定できるように日頃から選択肢を用意したり、一方的に大人が良いと思って決めないように心がけている。	子どものつもりや意思を言葉だけに頼らず、表情や行動から汲みとる等細やかに対応し、本人の自己表現する力を育てたい。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	0	なるべく関係機関と協力して本人や家族の支援ができるようにケース会議の開催や参加を心がけている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	0	学校の先生とも日頃からコミュニケーションを取るようにし、相談しやすい関係を築くよう心がけている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	0		丁寧に引き継ぎや情報共有をすることが本人や家族の安心にも繋がるので大切にしたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	0	相談支援とも連携し、引き継ぎを丁寧に、本人や家族が安心して移行できるようにしている。	児童から成人への制度が変わる時の保護者の不安は大きいので情報提供等、丁寧にしていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	0	こども園がセンターなのでスーパーバイズを受けることはないが、情報提供や研修について等、連携を取り、助言をしている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	0	平日は時間的に交流するのは難しい。土曜日や長期の休みの時はなるべく地域に出ていくようになっている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	0	子ども部会の部長として企画、運営に携わっている。	協議会の会員同士で顔の見える関係ができ、色んな面で協力、連携ができているので引き続き盛り立てていきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	0	親子通園で保護者と顔を合わせることも多く、お互いにコミュニケーションを取るようになっている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	0	幼児期、学齢期、成人期を一貫とした療育を行い、家族支援を行っている。時期時期に出ている悩みや課題についても勉強会や講演会	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	0		1回の説明で分かりにくい場合もあると思うので、保護者に確認してきちんと理解していただけるよう心がけたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	0	本人主体の考え方で、本人が意思決定する力をつけていけるように本人や家族とその都度確認している。	将来に向けて、本人がしっかり意思表示したり、納得して選ぶ、決める力をつけることの大切さを保護者に理解してもらえよう伝え
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	0	保護者からの相談には迅速かつ適切にのるよう心がけている。保護者と同じ方向を向いて協力して子どもの成長を支えられるよう信	保護者の方から相談しやすい関係を日頃から築くべく、コミュニケーションを心がけたい。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	0	通園の保護者と卒園児の親の会と協力して交流や勉強会や講演会、イベントを行っている。	保護者同士のたてと横の繋がりを応援することで家族力を高めてもらえるよう支援していきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	0	苦情については、迅速、適切に対応を心がけ、事業所全体でも振り返りと改善策を実施している。	苦情や要望について対応の体制があることを周知徹底し、よりよい施設運営に努めたい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4	0	園だよりや給食だより、保健だより等の通信の他、ホームページで分かりやすく、面白い内容を心がけて発信している。	常にわかりやすさや子どもや保護者に楽しみにしてもらえるような内容、更新回数を増やすことを目標に取り組みたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	2	コロナ禍以降、事業所の行事に地域の人を招く機会がなくなったが、ここ2年で段階的に開放している。	事業所を知ってもらうために行事の地域開放や子ども食堂や地域のイベントに職員が参加していき、顔の見える関係を作りたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	0		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	0	定期的に訓練はしているが、色んな場面一状況を想定しての訓練は不十分。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4	0	看護師が中心となって子どもの健康状態を常に確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	0	療育に関わる職員や厨房職員、看護師も一緒に注意する点や万が一の対応について確認している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	0	安全計画を作成し、職員が定期的にチェックをし、必要な対応をしている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	0		安全計画の取組内容について家族に周知が不十分なので改善したい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	0	ヒヤリ・ハットについては必ず施設全体で情報共有し、再発防止の対策を含めて確認している。事例集をもとに研修も実施。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	0	年内通して研修を行っている。虐待防止委員会の開催など、日頃から虐待が起こらないような職員の関係づくりをしている。	引き続き、虐待、身体拘束、ハラスメント等職員全体として人権意識を高めるための研修や勉強会を実施したい。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	0	職員には研修等でも周知徹底している。止むを得ず身体拘束した場合（車イス、ヘッドギア）は必ず記録に残している。		